

10月9日に本校2年次が修学旅行で訪問した兵庫県立農林水産技術総合センター酒米試験地(兵庫県加東市)での取り組みが現地の神戸新聞(10/31 朝刊)において記事になりました。

加東

茨城県稲敷市の江戸崎総合高校の2年生が修学旅行で加東市を訪れた。県立農林水産技術総合センター農業技術センター酒米試験地(同市沢部)や加東アート館(同市下滝野)に足を運び、酒米山田錦や北播磨の魅力を体感した。
(井筒裕美)

山田錦のまちへ
修学旅行生来訪

山田錦の稲穂について説明を受ける生徒(右2人)ら＝加東市沢部

茨城県の高校生 酒米試験地など見学

豊かな食文化に興味津々

大阪・関西万博に合わせ、兵庫県の展開する体験型観光事業「ひょうごフィールドバリエーション(FIELD)」の学旅行先として同市が選ばれたことを受け、同高がこ

中央にできる心白が大きく、こうじ菌が入りやすいことなどから酒造りに適している」と説明。「酒米の王者」と称される理由や山田錦生産システムが、1月に日本農業遺産に選ばれたことを紹介した。「お酒が飲める年になつたらぜひ加東産の山田錦で乾杯して」と呼びかけ、「世界に一つだけの花」の曲の替え歌「世界に一つだけの山田錦」を披露して会場を盛り上げた。

同市と同様に、山田錦の「発祥のまち」を掲げる多可町がFIPに指定されたことから、同町中区鍛冶屋の

獅子銀

ゆひか店

0794888888

米粉スイーツ店「米菓」の今中雄一郎さん(44)が講演。小麦アレルギーを抱えながらケーキ店で働いた経験や古民家を改装して5月に店を開き、山田錦の米粉や酒かすを使った菓子作りに取り組み思いを語った。

その後、生徒らは収穫を控え、こうべを垂れた稲穂を見学。道の駅とうじょうにも立ち寄った。岩部光汰さん(17)は「酒の文化や地形を知られて面白かった。加東市を応援したい」と話した。